

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 新賀 (きのこのき)

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験5年

評価調査員 在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「手押し車ここへ置きますね」Aさんはそう言って、手押し車を廊下の隅に止める。「はい、どうぞ」職員が笑顔で応じる。そこはAさん専用の手押し車の駐車場になっている。Aさんは食卓の椅子やテーブルを伝って、お気に入りの長ソファに腰掛け、編み物を始める。編み物道具一式は専用の手提げ袋にまとめてソファ横に置いている。一連の動作は手慣れたお決まりの段取りで、Aさんは人の手を借りずに自分で出来る。仲間が座るのを見ながら、誰かが「よいしょ」ボソッとかけ声をかけ「急にドスンと座ると危ないからな」にっこり笑う。仲間同士の労わり合いが優しい。隣りの長ソファにはBさんとCさんが仲良く並んで座っている。静かに流れるBGMの音楽に合わせて、目を閉じて寝ているのかと思っていたCさんが、小さな声で歌い出す。Aさんも一緒に口ずさみながら、リズムカルに編み物の手を動かす。職員は静かにその傍らに座り、体でリズムをとっている。一段高い畳の間の炬燵に入って新聞を読んでいたEさんは、気持ち良さそうに日昼寝を始めた。その横でFさんは雑誌を見ている。昼食後の一時、利用者達はそれぞれのお気に入りの場所で、いつもと変わらない寛いだ時間を過ごしている。ホームは利用者が無理なく普通にゆったり生活できるよう支援している。利用者達は、ごく当たり前に自由に暮らし、職員はその足りない部分だけそっと手助けする黒子の役に徹している。さり気ない空気のような存在で利用者を包み、その杖になりたいと考えている。平凡な日常の安心感が、利用者に落ち着きをもたらしている。テレビで「百歳バンザイ」の番組が始まり、社交ダンスを楽しむ101歳の男性が紹介された。「まあ、真っ赤な蝶ネクタイして踊りよる！あの人101じゃて」Aさんが言うと「ああいう若い女の人と遊ぶから、元気なんじゃ」Bさんも納得する。二人の言う若い女の人達が60～70代の婦人なのが可らしい。ホームの元気印、赤いセーターが良く似合うFさんも明るい色が大好きだ。「自分で私は年じゃと思わず、まだ大丈夫だと思えて元気出さなきゃ！私は頭の方は抜けとるけれど、この年になっても自分で歩いてトイレも行ける、有難いことです。元気の出る明るい色着て、人生明るいいかんと！いつも明るい色着とったら、自分もなれて、誰も何とも思いやせん。人生長いもんじゃから、沈んでばかりおってもどうにもなりやせん」Fさんと話して、私もエネルギーをいっぱいもらった。「どこに住みたい？」と職員に聞かれ、迷わず「ハワイ！」と答えるFさんは何年か後に赤い服着て、テレビに登場出来そうだ。利用者それぞれが自分を出せてその人らしく暮らす、実に居心地の良いホームである。

特に改善の余地があると思われる点

運営推進会議をきっかけに、地域の高齢者の集う「棕の木サロン」に参加したり、山道を登るのは大変だからと、トラックで地域の祭りの神輿を運び披露してもらえ等、地域との交流に大きな進展が見られたのは、非常に喜ばしい。今後は民生委員だけでなく、運営推進会議出席メンバーを広げ、より深く地元の人に分かってもらえるよう働きかけて欲しい。これだけの実績と実力を持っているホームなので、更なる啓蒙活動を期待している。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：母体法人全体での理念は、職員研修で周知徹底できており、その考え方を基盤にホームの理念を作成している。職員のモチベーションも高く、それぞれの思いを日々の支援に生かそうと取り組んでいるので、特に改善項目はない。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームは家族からも今までの暮らしぶりをよく聞いて、利用者一人ひとりの人生歴を把握し、家の延長線上での生活を継続できるよう支援したいと考えている。職員達は、年齢層も今までの職歴も様々だが、それぞれの経験を生かし、よく話し合っ良いと思う方法を検討し、どんどん新しい事を取り入れていこうと意欲的だ。松陰寛のチームワークもよく、やりがいを持って働いている。利用者も職員も無理なく楽しく過ごせる居心地の良いホームを目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ハード面での生活環境は充実し、居室や共有スペース外回り空間の全てにおいて落ち着いた環境で生活出来ているので、特に問題もない。プライバシーが守れて安心できる自由な落ち着いた空間づくりを重要視して、理念としても掲げている。</p> <p>2、全体的に見て…：「今ちょっと私おかしいけど、よろしくね」と挨拶してくれたDさんは、体調が不安定な時期だと自分でも分かっているようだ。落ち着きがなく、何度の玄関から出て行こうとする。玄関は施錠なしで、自由に出入りできる。職員は制止することなく様子を見守り、必要に応じてついて行く。スリッパのまま歩いて行こうとするDさんに、「靴に履き替えていこう」とさりげなく声をかける。散歩に行ったり、食材を買いに行こうと誘ったりの自然な対応で落ち着いて生活できるよう支援していた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価不能	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームは、深くアセスメントをして、人生歴も含めてその人をよく把握し、どうサポートしていくかを検討し、介護計画を日々の支援に生かせるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりに合った個別ケアで、その人らしい暮らしをきっちり守っていこうとするケアの水準は、高いレベルにある。</p> <p>2、自分の気持ちを上手く伝えることができず、自室に閉じこもり、子供の名前も分からなくなっていた人がホームに来て、出来るだけリビングルームで皆と少しでも話をするよう支援する内に、皆と一緒にいいと言い出し、表情も出てきて、家族が判別できるようになった。息子さんは自分の名前を呼んでくれたと喜び、表情が良くなったと驚いている。好き嫌いの多かった人も、皆と一緒に食事をする内に、だんだん食べれるようになった。帰宅願望が強くて度々家族に電話していた人も、落ち着いた。ホームに来て良くなった人は多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進	評価不能	
37	ホーム機能の地域への還元	評価不能	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームは小高い丘の上であり、周辺には同一母体法人関連施設が連立し、山全体が一つの村の様相を呈しているため、一般のグループホームと異なり、ホームが単独で地域との交流を図ることは出来ず評価不能としている。</p> <p>2、全体的に見て…：ホーム玄関横の多目的に使用できる庭付きの和室では、毎月2回同一母体法人のケアハウスやグループホームの住人が集い、歌の会を開き、親睦を図っている。時には他のグループホームの利用者や家族も交えて、ティ・タイムやバーベキューを楽しんだり、誘われて出掛け、他のグループホームと一緒に正月のしめ縄飾りを作るなど、同一母体法人関連施設内での自然な近所づき合いもできている。</p>		